

牛久：学校周辺に見る自然

第18号 ひたち野うしく小学校

2018年5月27日発行

＜ 晩春のみずべ公園 ～⑥ハチのなかま＞

ひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回は、ハチのなかま。



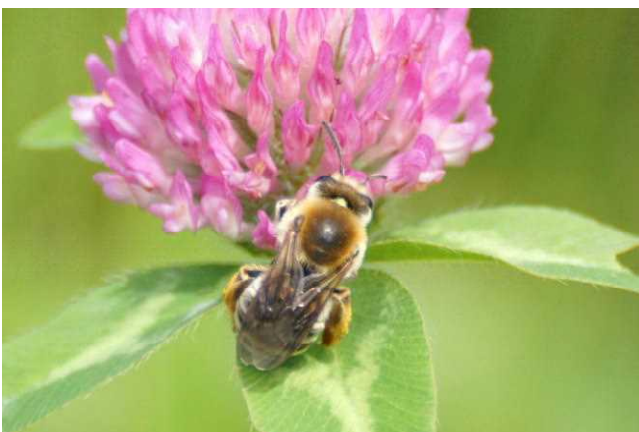
泥水を吸うモンズメバチ(上2枚)と、コガタズメバチ(下)。



チョウが^{どろみず}泥水を吸っているすぐそばで、ズメバチもよく^{どろみず}泥水を吸いに来ています。5/15にはモンズメバチが、5/17にも同じハチが…と思いましたが、よく見るとこちらはコガタズメバチでした。よく似ていますが、どこがちがうか、もようや色をよく見くらべてみましょう。



ムラサキツメクサの蜜を^{みつ}吸うニッポンヒゲナガハナバチのめす(左2枚)と、シロスジヒゲナガハナバチのめす(右)。



続いて、ムラサキツメクサの蜜を^{みつ}吸っていたハチ。こちらも2種類ですが、そっくりですね。どちらもおすは^{しよっかく}触角が長くて、それぞれニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチといいますが、^{はら}腹や^{むね}胸のもようや色はほとんど同じで、^{はね}羽の^{みやく}脈のもようを見ないと^{くべつ}区別できません。



ブタナの蜜を吸うハチ(左)と、林の中に落ちていたクマバチの死体(右)。

草はらのブタナやハルジオンには、小さなハナバチがよく蜜を吸いに来ています。林のふちなどではエゴノキが満開で、クマバチやミツバチ、マルハナバチがたくさん来ていましたが、ふと下に目をやると、まん丸なハチが一匹死んでいました。クマバチでした。蜜を十分とれなかったのか、原因は分かりませんが、まだ死んだばかりのようできれいでした。写真をよく見ると、蜜を吸うための長くつき出た口先や、はねが4枚であることなども確認できますね。昆虫ですから、体が頭部・胸部・腹部からなり、足は6本、胸から出ていることも分かります。ただしハチの死体では、さわると自動的に針が飛び出て刺すことがあるそうですから、注意が必要です。



ギンギシの葉を食べるハグロハバチの幼虫。

ハチの種類 → 食性 → 針の有無

(原始的)

ハバチ → 植物の葉 → 腰のくびれ、尻の針もない。
(産卵管がある)

キバチ → 材木 → 腰のくびれ、尻の針もない。
(産卵管がある)

寄生バチ → 他の昆虫(寄生) → 産卵管を虫に突き立てる。

狩りバチ → 他の昆虫(捕食) → 獲物の体をマヒさせる。

アリ → 雑食 → 多くの種で毒針は退化

進化

ミツバチ → 花の蜜 → 産卵管は毒針専用になる。

スズメバチ、アシナガバチ → 他の昆虫(捕食)、花の蜜
→ 産卵管は毒針専用になる。

※ ハチの進化と食性(何を食べるか)、針の有無。

ギンギシの葉を食べるコガタリハムシを観察していたら、いも虫のような幼虫を見つけましたね。こういう幼虫を見つけると、すぐに「チョウか、ガの幼虫」と思いがちですが、これはハグロハバチという、ギンギシやスイバなどの葉を食べる原始的なハチの幼虫なのです。人を刺すハチの毒針は産卵管が変化したのですが、ハバチのなかまには毒針もなく、産卵管は卵を産むために使います。 【理科支援員：宮内】